

# 牛久：学校周辺に見る自然

第2号 ひたち野西近隣公園

2015年10月15日発行

<動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ②花に来る虫たち その2.ハチ・ハナアブ>



エゴノキの蜜を吸う、キンケハラナガツチバチのメス。

9月24、29日、ひたち野うしく小3年生とのみずべ公園。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回は花の蜜や花粉を求めてやってくる虫たちから、ハチやハナアブを紹介しします。

セイヨウタンポポやブタナの黄色い花に、ミツバチなどが来ていましたが、写真に撮るのを忘れていました。唯一写したハチが左のキンケハラナガツチバチ(めす)。花はエゴノキですが、この樹木の花期は5～6月。本来の花期からはずれて開花する現象を「狂い咲き」などと呼んだりしますが、植物によってその起こりやすさは違うようです。



ホバリングしながら花に近づき(左)、ツクサの花粉を食べるホソヒラタアブ(右)。

続いて、ホソヒラタアブ。ホバリングしながらツクサの間を移動して、花から花へと花粉や蜜をなめて回ります。そう、一見ハチのような姿ですが、ハチではなくむしろハエに近い仲間なのです。ハチとどこが違うかはこれまで何度かこの通信でお話してきましたが、主な違いはハナアブははねが2枚で触角が短く、複眼が大きくて腰のくびれがないなどで、いろいろな点をチェックすることでハチと見分けられます。もちろん刺すことはありません。どうしてこんな姿をしているのでしょうか？ 考えてみましょう。



ツクサの間を、一回り小さめのハナアブが飛んでいました。キタヒメヒラタアブです。花にとまるとやはり、花粉をなめ始めました。おいしいのか、長くとまっていてくれました。

【理科支援員：宮内】

ツクサの花粉を食べるキタヒメヒラタアブ。ハチに似ているが、むしろハエに近い仲間